

娘評判記

13
3223
8





娘評判記

上

5
へ13 待
3223
8

娘評判記

上之巻 全六冊

芝神明前三嶋町
和泉屋市兵衛板

京山作
國貞画



娘評判記の作評判よくひやうをんらう駒と出して評判
 ふ走やくくのもるき作るまど二編已ふせよ布どめの云
 かさひて四編を継ぐ人ね辺あらぶぎて誰をう俟んと不
 立致日のやくそくを頭一よりのまごうくの催促を下か
 よめをそくさのまめをりとそふ来年の新板を年の内々
 作意まる四畳半の冬ぶりを年師走ふせあひもの金
 さるるらう街頭の夜あだのちんりちをつぐあの人を損料の史
 記も師走の蚤らると其角がいつる時あやあらん
 賃餅の音を師走の持衣のあ

天保十己亥春上梓

山東庵京山





ついでに
かきすも
雪の
あはれ
を
か

○油屋お七あが
下女お初

○搦井家の中老
尾上

浪平川四編



令情意
意有句
全看背面時

山重

○あがらや
おそめが
時次郎
○かきすの
らる月花の
ちま浦里
無言惟識
○あがらや
千鳥之介
○あがらや
の長臣
の村



○あがらや
娘おそめ
○あがらや
小がひ
久松

浪平川四編

第一やぶらぎの辰

さ月あありむら
 とけふさのまらち
 はがそのむらひやう山ど
 こらうとよかもの川あむ
 やうとまらるるさうら
 むの地のうこそこのま
 つきそこのけとさ
 あゆそののけふは
 かりやるるさうら

かあるさうら
 せられ千ものぬを
 つら老色やりのやるさ
 こらけふさびやるる
 せうりののけふは
 せうせんやりのけふ
 せうせんやりのけふ
 せうせんやりのけふ
 せうせんやりのけふ
 せうせんやりのけふ

作者曰
 むらうの夏
 ああ
 小そ
 ああ
 ああ
 ああ



ひもをさうら
 どのの母とりのるの用
 まりひらさうら
 一あで
 そもく
 よりあ
 むのう
 びらり
 あて
 うら
 うら

母
 あめ
 り
 あ
 さ

ち
 あ
 り
 け





① ちよつめあつたんとはるを
 せまやうひまのこれあそめ
 せんたまうてあるさうらうや
 るのそちのひの
 こけをトあるト
 ちよつめあつた
 やられうなり
 せんあふり
 そまよ

② ちよつめあつたんとはるを
 せまやうひまのこれあそめ
 せんたまうてあるさうらうや
 るのそちのひの
 こけをトあるト
 ちよつめあつた
 やられうなり
 せんあふり
 そまよ

③ ちよつめあつたんとはるを
 せまやうひまのこれあそめ
 せんたまうてあるさうらうや
 るのそちのひの
 こけをトあるト
 ちよつめあつた
 やられうなり
 せんあふり
 そまよ



④ それうらやまの
 せのめんあうがあやの
 めでうふなごかう
 あまあひまんでうま
 けひの
 そのの
 せむの
 ませむ
 ト

⑤ ちよつめあつたんとはるを
 せまやうひまのこれあそめ
 せんたまうてあるさうらうや
 るのそちのひの
 こけをトあるト
 ちよつめあつた
 やられうなり
 せんあふり
 そまよ

後編 河原七回

五

三人びらんのふたごころも
あつてこそあつてよとあつて
あつてのちちちののちち
あつてのちちとせぬやうか
あつての二

あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二

あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二

あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二

あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二



あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二
あつてのちちとせぬやうか
あつての二



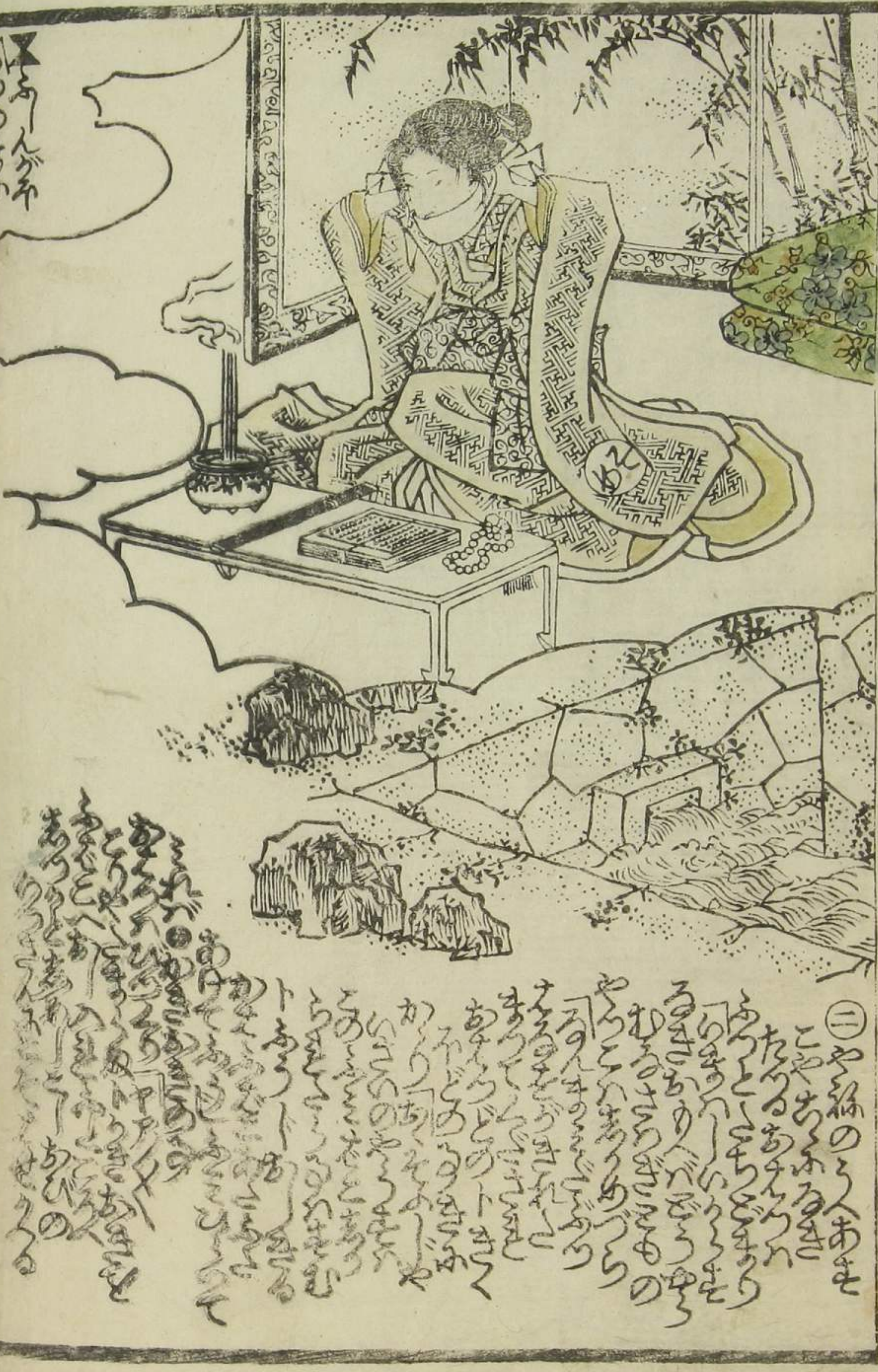
あつておんこ
 のそりるの
 んの用り
 ぞんごせぬ
 七ツまぐりののま
 るりあまの
 るさつ
 ころそり
 りがま

かきとふの
 とあひのの
 るるの
 まぬと
 るるの
 だん
 けん

あつておんこ
 のそりるの
 んの用り
 ぞんごせぬ
 七ツまぐりののま
 るりあまの
 るさつ
 ころそり
 りがま

▲其五
 おおぬひ
 かの
 かん
 せん
 せん

あつておんこ
 のそりるの
 んの用り
 ぞんごせぬ
 七ツまぐりののま
 るりあまの
 るさつ
 ころそり
 りがま



おんこ

あつておんこ
 のそりるの
 んの用り
 ぞんごせぬ
 七ツまぐりののま
 るりあまの
 るさつ
 ころそり
 りがま

あつておんこ
 のそりるの
 んの用り
 ぞんごせぬ
 七ツまぐりののま
 るりあまの
 るさつ
 ころそり
 りがま

あつておんこ
 のそりるの
 んの用り
 ぞんごせぬ
 七ツまぐりののま
 るりあまの
 るさつ
 ころそり
 りがま

あつておんこ
 のそりるの
 んの用り
 ぞんごせぬ
 七ツまぐりののま
 るりあまの
 るさつ
 ころそり
 りがま

娘評判記四編合巻中

▲此が村の辰

其二

母久々おききたら
 のちくあとも
 兄あつて一やま
 小入んこひさまうら
 せのトんまるとんふつけその
 ことまのまひとのりあけ
 なるうらまのちあてりうのそ
 へん入れ子小あや子の
 へんをさるれあとも
 つまはせこれあとも
 ら井さめのれりちあ
 めての村あまあつて
 とのりまのくのりあ
 今での名もちのりあ
 中ひさねとあまあ
 さごめてのトんま
 あろつ子のあまあ
 をりて目あへんまけの
 をりてあまあ
 あれもたひくそま
 介のあまあ



①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳

娘評判記四編

娘評判記

京山作 貞画

甘泉堂梓

天保
己亥
春





母 (ママ) 子 (コ)
 母と子が庭で話している様子。母は黄色い着物を、子は白い着物を着ている。背景には織機や竹垣が見える。

母と子の庭話

母と子の庭話
 母と子が庭で話している様子。母は黄色い着物を、子は白い着物を着ている。背景には織機や竹垣が見える。



父 (パパ) 母 (ママ)
 父と母が庭を歩いている様子。父は格子着物を、母は黄色い着物を着ている。背景には竹垣や木々が見える。

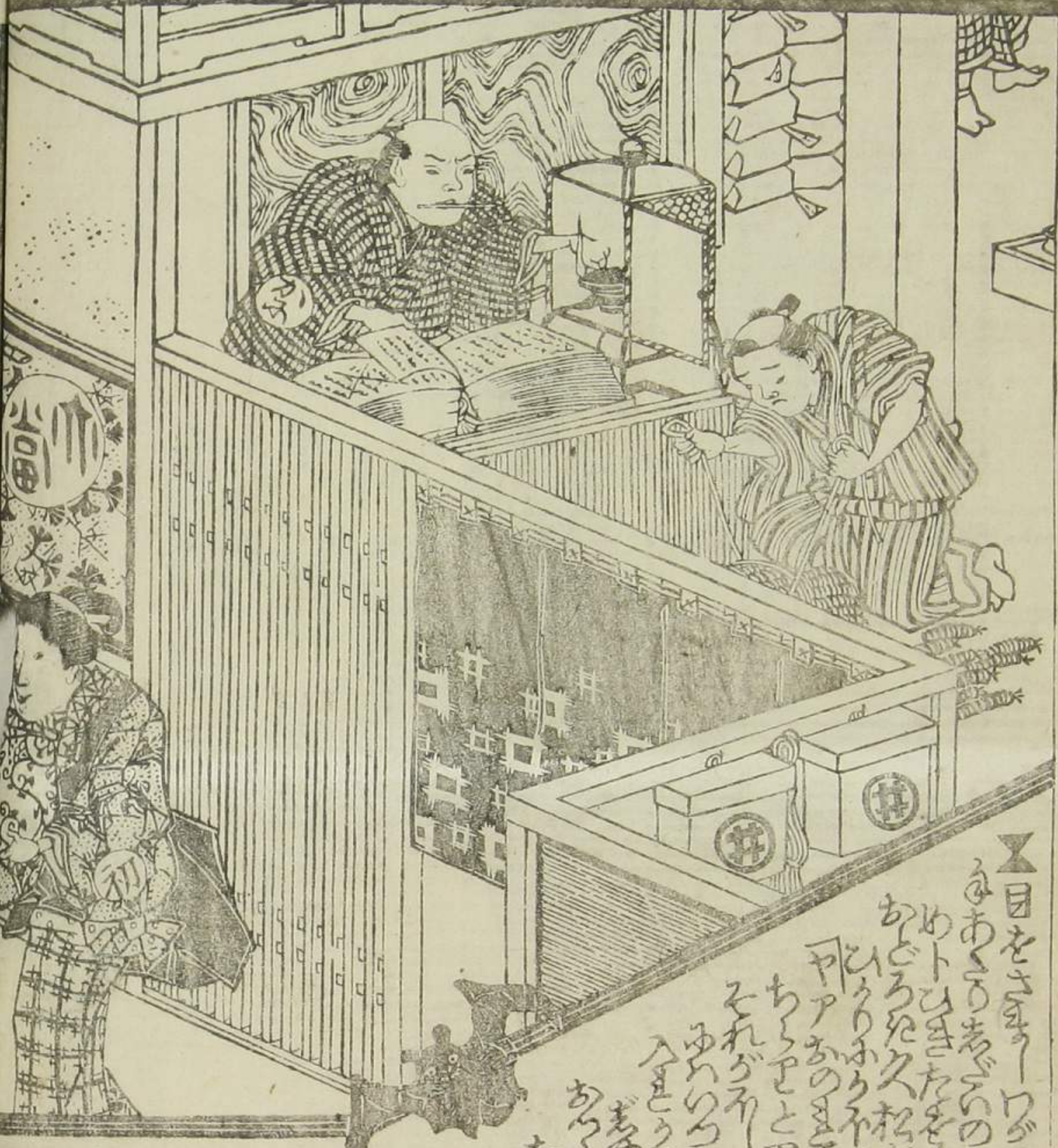
父と母の庭歩

父と母の庭歩



五市子

久松がぬまの
 五市子
 母人ふさう
 くふくをうける



五市子

久松がぬまの
 五市子
 母人ふさう
 くふくをうける

巻の四

① 五の巻かあちやのくうへん入をせせり
 くらたのうけんの母がさうゆりのひつが
 たちまのせぬうさぎのそのくせり
 こまをさるふ入をせられ
 たんまのひつが
 くらたのうけんの母がさうゆりのひつが
 あちやのくうへん入をせせり
 こまをさるふ入をせられ
 たんまのひつが
 くらたのうけんの母がさうゆりのひつが
 あちやのくうへん入をせせり
 こまをさるふ入をせられ
 たんまのひつが



② そのやあるぬ申るひ
 あちの母さるうらを
 こまをかさのうらを
 りあひんさる
 くれりうら
 くらたのうけんの母がさうゆりのひつが
 あちやのくうへん入をせせり
 こまをさるふ入をせられ
 たんまのひつが

③ たのこあひひのせをせり
 りのせだんくはまをせり
 ちまのせだんくはまをせり
 そくをせり
 はまのせだんくはまをせり
 こまをせり
 くらたのうけんの母がさうゆりのひつが
 あちやのくうへん入をせせり
 こまをさるふ入をせられ
 たんまのひつが



④ せり
 くらたのうけんの母がさうゆりのひつが
 あちやのくうへん入をせせり
 こまをさるふ入をせられ
 たんまのひつが

巻の四

巻の四

四の巻へ

△コレあふさるゝかひのうら...
たを...
あふ...
あふ...
あふ...
あふ...

④さんごさの一代衣百三十二せん
骨一のうを...
あはれ...
あはれ...
あはれ...



⑤雲の上六十世
あはれ...
あはれ...
あはれ...

⑥あはれ...
あはれ...
あはれ...

女粧考卷
近京作
骨董集 四編

京山補訂

あはれ...
あはれ...
あはれ...

あはれ...
あはれ...
あはれ...

あはれ...
あはれ...
あはれ...

① ちやうどつらつらする時流ち
 久松がたふささのぞを
 村のひさねでまじり
 がてんのちやうどつらつら
 ちやうどつらつらする時流ち
 ありのちやうどつらつら
 けさぐさのちやうどつらつら
 ちやうどつらつらする時流ち

② さくらりーとまて
 ふかふか
 里とまて
 ニラあとの
 まいよびの
 おそめあとの



③ ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち



④ ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち

⑤ ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち

⑥ ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち

⑦ ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち

けふあまきとまてつらつらする時流ち
 おそめあとのちやうどつらつらする時流ち
 とちやうどつらつらする時流ち
 のちやうどつらつらする時流ち
 ひさねあとのちやうどつらつらする時流ち
 かりのちやうどつらつらする時流ち
 けふあまきとまてつらつらする時流ち
 おそめあとのちやうどつらつらする時流ち
 とちやうどつらつらする時流ち
 のちやうどつらつらする時流ち
 ひさねあとのちやうどつらつらする時流ち
 かりのちやうどつらつらする時流ち

⑧ ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち

⑨ ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち

⑩ ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち
 ちやうどつらつらする時流ち





第九油あぐらの辰
うきゆめあぐらの辰
けさゆめあぐらの辰
けさゆめあぐらの辰

(一)

(二)

久松... 西... 東... 南... 北...
久松... 西... 東... 南... 北...
久松... 西... 東... 南... 北...

後平川七口編

廿一

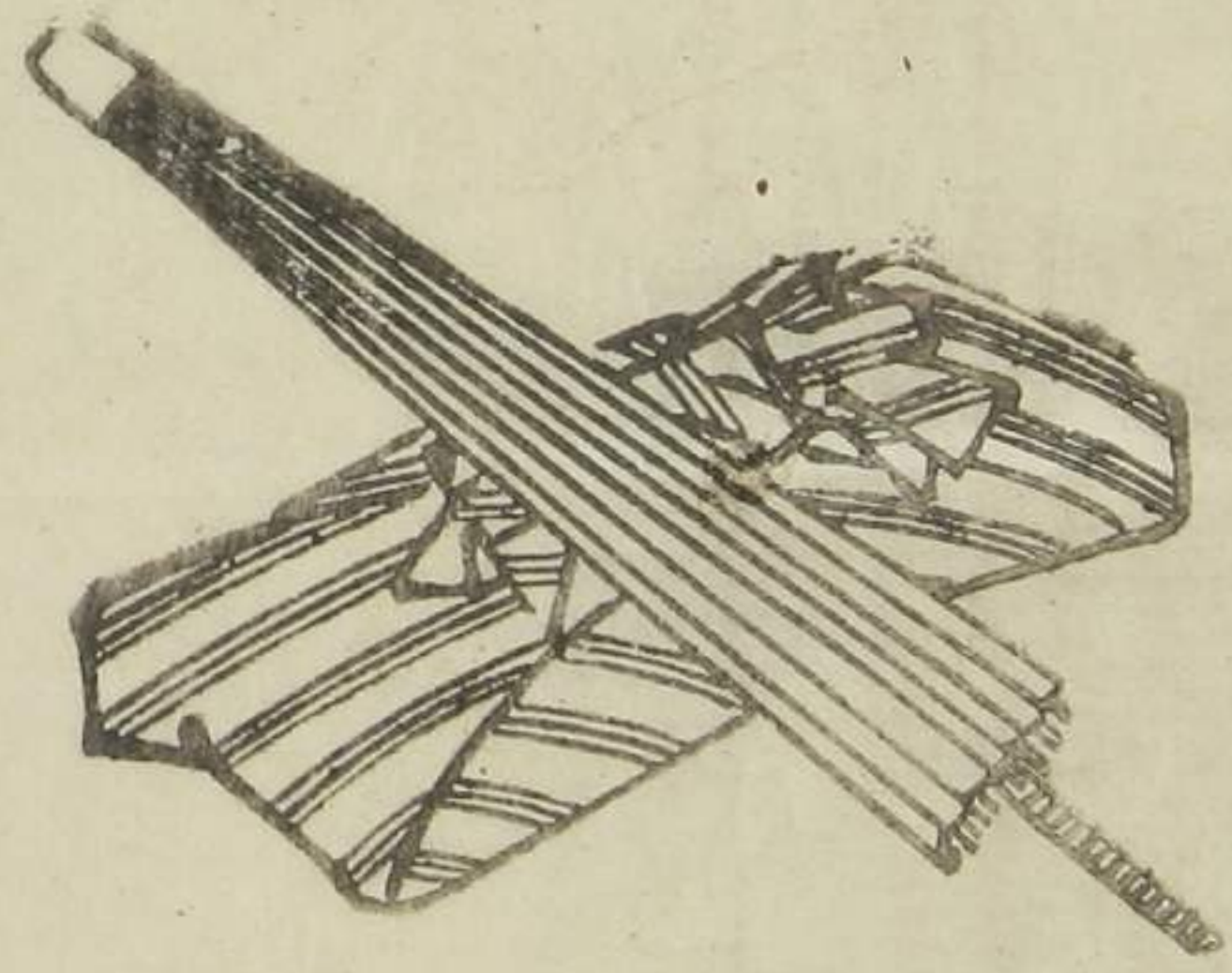
京山 伝
園 貞 画

むしきし

存 宗 記

下巻

丁保十日支替



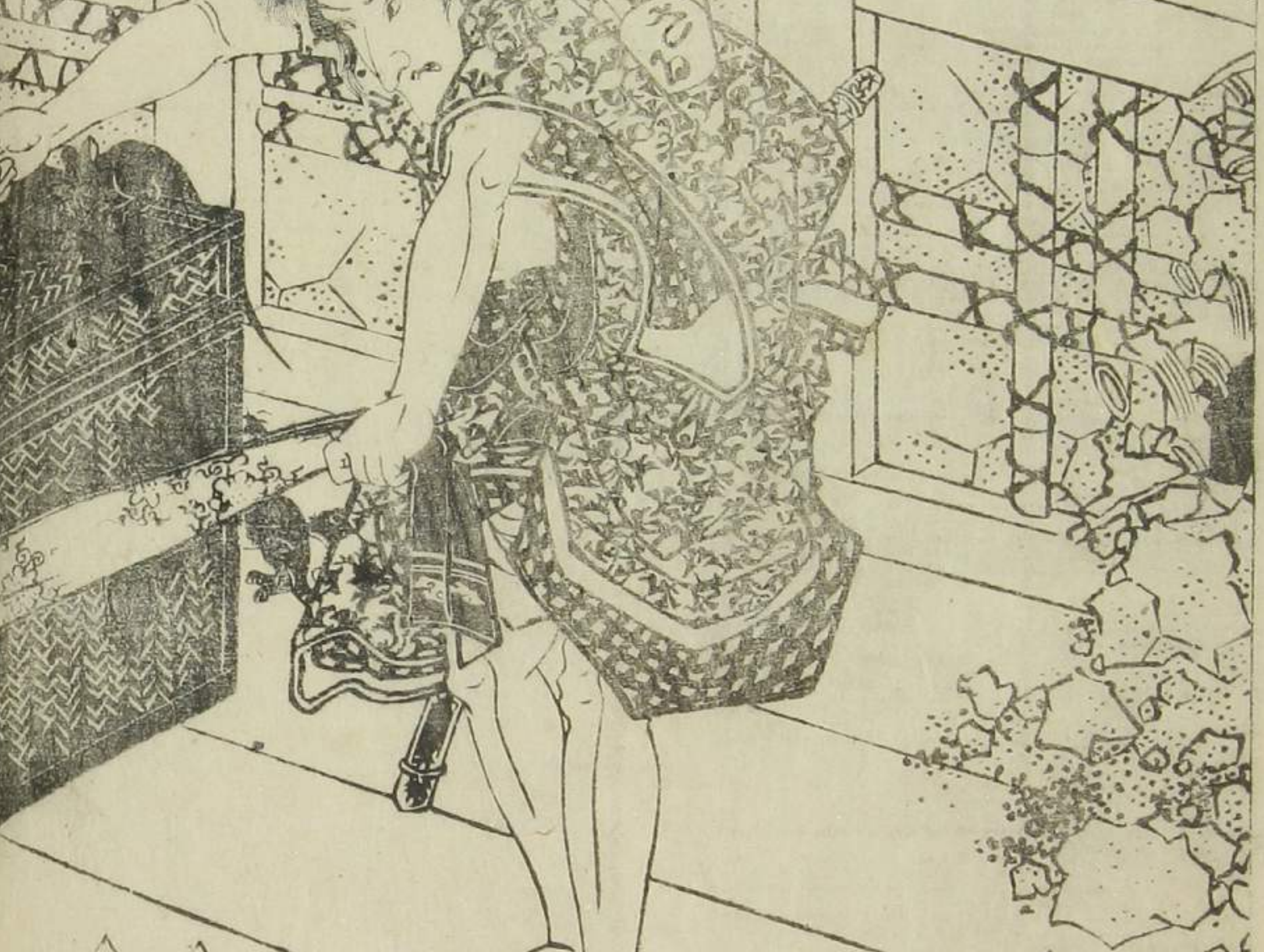
廿 永 光 梓

此の所は... (vertical text columns)
 ... (various small characters and notes)



七五 (written vertically on the left margin)

此の所は... (vertical text columns)
 ... (various small characters and notes)



... (vertical text columns)
 ... (various small characters and notes)

... (vertical text on the right margin)

... (vertical text on the right margin)



① 六つ里を
かきあつた
よりその
はたつた
ひまを
あること
るりよけの
●久松の
よりまろ
やうまろ
がひが



② 八つ里を
かきあつた
よりその
はたつた
ひまを
あること
るりよけの
●久松の
よりまろ
やうまろ
がひが

③
あつた
よりその
はたつた
ひまを
あること
るりよけの
●久松の
よりまろ
やうまろ
がひが



浪澤判代四編

廿六



浪澤判代四編

廿七



娘評判記

甘泉堂板 上

舞

「お初ら〜」お初らかふ八を本のおそくおあけつた
 けり人のまがふるおそくおあけつたおそくおあけつた
 人のか〜山トおあけつた
 りつ〜おあけつた
 おあけつた〜おあけつた
 目〜おあけつた
 王九の〜おあけつた
 かな〜おあけつた
 か〜おあけつた
 の〜おあけつた
 お〜おあけつた
 あ〜おあけつた
 不〜おあけつた
 不〜おあけつた
 不〜おあけつた
 ま〜おあけつた
 ら〜おあけつた
 て〜おあけつた



お初ら〜おあけつた
 けり人のまがふるおそくおあけつた
 人のか〜山トおあけつた
 りつ〜おあけつた
 おあけつた〜おあけつた
 目〜おあけつた
 王九の〜おあけつた
 かな〜おあけつた
 か〜おあけつた
 の〜おあけつた
 お〜おあけつた
 あ〜おあけつた
 不〜おあけつた
 不〜おあけつた
 不〜おあけつた
 ま〜おあけつた
 ら〜おあけつた
 て〜おあけつた

お初ら〜おあけつた
 けり人のまがふるおそくおあけつた
 人のか〜山トおあけつた
 りつ〜おあけつた
 おあけつた〜おあけつた
 目〜おあけつた
 王九の〜おあけつた
 かな〜おあけつた
 か〜おあけつた
 の〜おあけつた
 お〜おあけつた
 あ〜おあけつた
 不〜おあけつた
 不〜おあけつた
 不〜おあけつた
 ま〜おあけつた
 ら〜おあけつた
 て〜おあけつた

昔むかし摸も樣やう

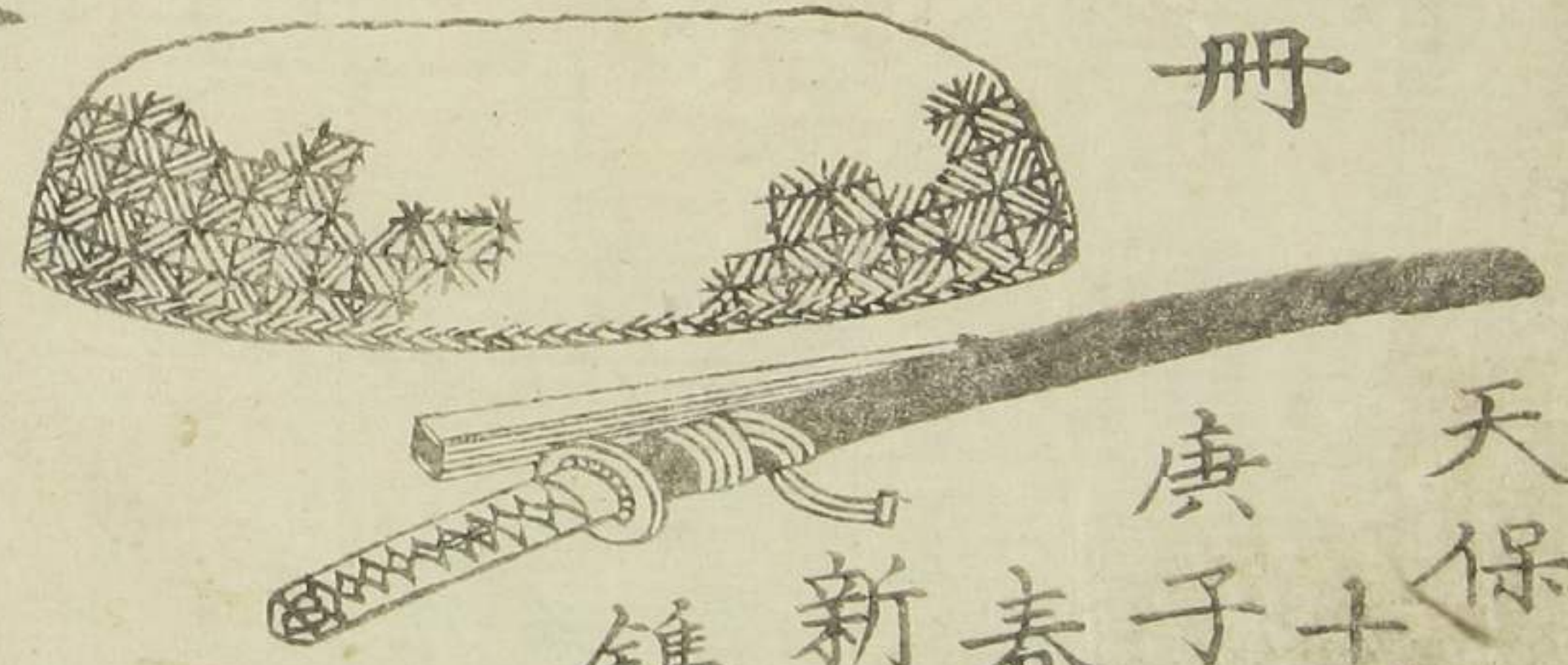
娘むすめ評ひやう判はん記き

全六冊

山東菴京山作
香蝶樓國貞画

神明前
芝 上之卷

甘泉堂上梓



天保
庚子
新春
鑄

壹

淑氣乍回
書帶草
春風又
放筆頭
禁

叙言

王勃文章殊善を請ふ
の霏々として不絶机上
常の金帛充人の心の王
勃の筆小耕し心不織ると
舊藉小見えたり王勃は
何楮の為小筆を採る余も
亦筆小耕して王勃と学ぶ
諸賢乞ふを思せよ

天保十一
新板
子之春

同年秋
脱稿先
春蒔取

良平川上編

涼

印

羽生村の
百姓
与左門



与左門
娘
かきね

坊主の
幽魂

奉納
願
かきね
主

慈猫
胡蝶
其角



浪平川記

大磯の
月花の
きぬ川



鎌倉月形の
奥女中
小金

月形の長臣
松戸竹之進
彦惣



女中

二八の夜花のうかえをけりけり
 十六きふんておころる
 ころりあうりまのりあもか
 つりかこんさうそめこのおも
 ひよこくきさうりぬをうま
 ならりてこれかおまのり
 かのりいはれどひんあやん
 うまのやうおまのりけり
 ひこぞやつれるのり
 りやでもあちか人のあ
 んてごころいれのり
 さうとかうあんいん
 まのさくまのひんあ
 ひんがうまのひんあ
 うこのまのり
 のりかきさのり
 のりかきさのり
 あくまとのりあ
 りんたひまぐらえけ
 ふびんると目るけり
 まのちくあやうめ
 とのりあまのり
 もりやとけのり
 りんちくあやうめ
 まあうふだらく
 ひまよせらる
 りめあうらひまのり



かきね
 双勝
 二八の夜花のうかえをけりけり
 十六きふんておころる
 ころりあうりまのりあもか
 つりかこんさうそめこのおも
 ひよこくきさうりぬをうま
 ならりてこれかおまのり
 かのりいはれどひんあやん
 うまのやうおまのりけり
 ひこぞやつれるのり
 りやでもあちか人のあ
 んてごころいれのり
 さうとかうあんいん
 まのさくまのひんあ
 ひんがうまのひんあ
 うこのまのり
 のりかきさのり
 のりかきさのり
 あくまとのりあ
 りんたひまぐらえけ
 ふびんると目るけり
 まのちくあやうめ
 とのりあまのり
 もりやとけのり
 りんちくあやうめ
 まあうふだらく
 ひまよせらる
 りめあうらひまのり

第一 柳生村の辰
 夫のふたのふまのり
 かのりあうりまのり
 りんちくあやうめ
 まあうふだらく
 ひまよせらる
 りめあうらひまのり



かきね
 双勝
 二八の夜花のうかえをけりけり
 十六きふんておころる
 ころりあうりまのりあもか
 つりかこんさうそめこのおも
 ひよこくきさうりぬをうま
 ならりてこれかおまのり
 かのりいはれどひんあやん
 うまのやうおまのりけり
 ひこぞやつれるのり
 りやでもあちか人のあ
 んてごころいれのり
 さうとかうあんいん
 まのさくまのひんあ
 ひんがうまのひんあ
 うこのまのり
 のりかきさのり
 のりかきさのり
 あくまとのりあ
 りんたひまぐらえけ
 ふびんると目るけり
 まのちくあやうめ
 とのりあまのり
 もりやとけのり
 りんちくあやうめ
 まあうふだらく
 ひまよせらる
 りめあうらひまのり

△かまきりあひりとのてりーのまかぶとちあ
 こひかつてかまのきまりむらぐらとてあきる
 ヤアとちあちかまのきまりむらぐらとてあきる
 きのてよあめえららちてんてん人やかまのきまり
 ちのあけ月にはらちてんてん人やかまのきまり
 まらるまぬ川のきまりむらぐらとてあきる
 のんぬまらむらぐらとてあきる
 つらぐらとてあきる
 ひまらとてあきる
 さぬ川へさぬら
 のりせとてあきる
 ひまらとてあきる
 さぬ川へさぬら
 のりせとてあきる

かまきり



二とちあちかまのきまり

とちあちかまのきまり
 かまのきまりとてあきる
 やめとてあきる
 るまらとてあきる
 ちのあけ月にはらちてんてん人やかまのきまり
 まらるまぬ川のきまりむらぐらとてあきる
 のんぬまらむらぐらとてあきる
 つらぐらとてあきる
 ひまらとてあきる
 さぬ川へさぬら
 のりせとてあきる

とちあち



かまきり

とちあちかまのきまり
 かまのきまりとてあきる
 やめとてあきる
 るまらとてあきる
 ちのあけ月にはらちてんてん人やかまのきまり
 まらるまぬ川のきまりむらぐらとてあきる
 のんぬまらむらぐらとてあきる
 つらぐらとてあきる
 ひまらとてあきる
 さぬ川へさぬら
 のりせとてあきる



〆あつちがいのついでとちあつちがいの
 あつちがいのついでとちあつちがいの
 のついでとちあつちがいのついでとちあつちがいの
 大つちがいのついでとちあつちがいの
 百つちがいのついでとちあつちがいの
 金五郎

かまの

④金五郎
 さつちがいのついでとちあつちがいの
 ひつちがいのついでとちあつちがいの
 さつちがいのついでとちあつちがいの
 あつちがいのついでとちあつちがいの
 金五郎



〆あつちがいのついでとちあつちがいの
 あつちがいのついでとちあつちがいの
 のついでとちあつちがいのついでとちあつちがいの
 大つちがいのついでとちあつちがいの
 百つちがいのついでとちあつちがいの
 金五郎

①あつちがいのついでとちあつちがいの
 あつちがいのついでとちあつちがいの
 のついでとちあつちがいのついでとちあつちがいの
 大つちがいのついでとちあつちがいの
 百つちがいのついでとちあつちがいの
 金五郎



① かのめがらやん...
② これ一か...
③ ありあけ...
④ ひんがし...

④ ひんがし...
⑤ ありあけ...
⑥ ひんがし...

①

① かのめがらやん...
② これ一か...
③ ありあけ...
④ ひんがし...



⑤ ありあけ...
⑥ ひんがし...
⑦ ありあけ...
⑧ ひんがし...

浪平判已立編



むしりかきや
のりもろり
あつた
あつた
あつた

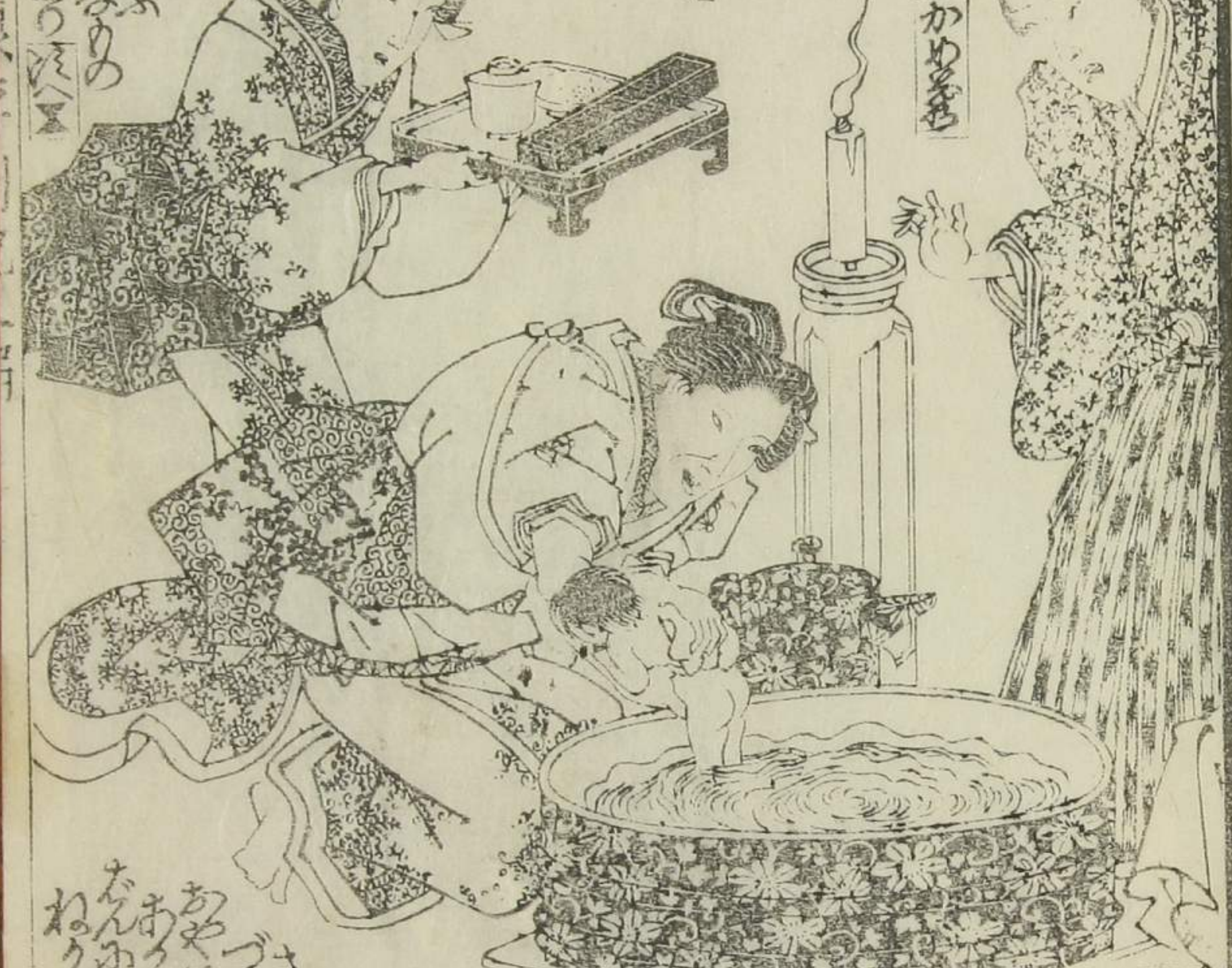
まつみさつげふ上下
きつめむすあぢちかりげ
あつた
あつた
あつた



①ちりりさりの二世と
ちりり金あり
ちりりその

かのみり
あつた
あつた
あつた

④ かくれあひの
 あらびきと
 ひてこまひさりけり
 よろこぶこのころも
 つまをこのよめる
 ところへ
 さのり
 人さの
 かこちひ
 であらひ
 どのト
 だつて
 日れ
 ぐ



⑤ かくれあひの
 あらびきと
 ひてこまひさりけり
 よろこぶこのころも
 つまをこのよめる
 ところへ
 さのり
 人さの
 かこちひ
 であらひ
 どのト
 だつて
 日れ
 ぐ



⑥ かくれあひの
 あらびきと
 ひてこまひさりけり
 よろこぶこのころも
 つまをこのよめる
 ところへ
 さのり
 人さの
 かこちひ
 であらひ
 どのト
 だつて
 日れ
 ぐ

江戸五編

九

甘泉堂
上梓
中



娘評判記五編

一 やりくりしころやうもいれりさての今の
 ころどのがあつてしころりやうもあつた
 やうトやうもあつてしころりやうもあつた
 ころもあつてしころりやうもあつた
 つげをひらきしころりやうもあつた
 百もあつてしころりやうもあつた
 あや子のえんも

京山作
國貞画

二 これまのり
 ありのりべく
 よんでひらけり
 きけり百もあつた
 ころりやうもあつた
 ころりやうもあつた
 ころりやうもあつた
 ころりやうもあつた

娘評判記五編上冊終

四 かなもも母あやの
 やうもあつた
 ころりやうもあつた
 ころりやうもあつた
 ころりやうもあつた

五

娘評判
記五編
中冊

△与ちあつた
つまごころ
さしあつた
入用る
百とさうの
うちあてあまき
あつたので入る
ちあつたので入る
七日のあつた
おねんころい
いとさうのけり
●ぬまはまの
あつたのちとさ
下のまごころ
さしあつたの
弟六

かえつたべ
かけあつた
ちあつたの

娘評判記五編



東京
真
志
海

中
記



芝神前甘泉堂青櫻

三つまでいせんのやうな
 めがれでけのをまてか
 うつあつあつあつあつ
 けつさつ
 さつさつ
 うさつ
 九つまでいせんのやうな
 さつさつ
 さつさつ
 さつさつ



①
 さつさつ
 さつさつ
 さつさつ
 さつさつ
 さつさつ

三つまでいせんのやうな
 めがれでけのをまてか
 うつあつあつあつあつ
 けつさつ
 さつさつ
 うさつ
 九つまでいせんのやうな
 さつさつ
 さつさつ
 さつさつ



川舟の物語

又山かやまくトあり目ふくけてたんとまる
ひとめいふもも一とありつづきのありふ
一とありあけのてまさる川舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の



①たぐさあぢい
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の

ひとのきやかのあぢい
ひとよやくと舟の尾の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の

あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の

あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の

あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の
あつこみくモシへみる舟の

舟の物語

△此の月が... (Vertical text describing the scene or characters)
 此の月が...
 ...
 ...



①此の月... (Vertical text below the illustration)
 ②此の月...
 ...
 ...

△此の月が... (Vertical text on the left side of the top illustration)
 此の月が...
 ...
 ...



③此の月... (Vertical text below the illustration)
 ④此の月...
 ...
 ...

娘洋判五銀



五の巻

六の巻

五の巻

六の巻

娘評判記五編終

夫を殺すか... (Main text on the right page, starting with a large vertical character 'り')



仙女... (Small text annotations near the bowl illustration)

右相... (Small text annotations near the woman's face illustration)

新編金瓶梅八冊 秘傳八編 曲亭馬琴作

金瓶梅維船利生續 第九編 曲亭馬琴作

花僧詠義經 全五冊 美圖垣笑顏作

名所競睦珠歌話 全四冊 美圖垣笑顏作

見雷也豪傑譚 第二編 美圖垣笑顏作

昔摸樣娘評判記 全六冊 香蝶樓國貞作

余 錦繪問屋 和泉屋市兵衛版

美圖山女香 四十八冊

錦繪問屋

和泉屋市兵衛版

此
主
津
子